



Title	精神のグローバリズム
Author(s)	濱田, 康行
Citation	信用組合, 55(3), 2-3
Issue Date	2008-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/33839
Type	column (author version)
Note	巻頭言
File Information	hamada.pdf



[Instructions for use](#)

精神のグローバリズム

濱田 康行

〈テレビの力〉

モノ書きの一人として残念なことだが、日本人の活字離れは相当に進んでいるようだ。大学生という書に親しむべき人々でも、あるアンケートによれば月に一冊以上は全体の 1 割程。なんと全然読まないという答えもかなりあるし、新聞もとっていないようだ。

要するに日本人の多くはテレビしか見ていない。だからその影響力はものすごいのだ。朝、テレビをつけると、各局とも報道型のワイド番組でしのぎを削っている。実は、私も見るのだが、これが楽・ラク、なのだ。つまり自分の頭で考えたり判断したりしなくてよい。そういう風に製作されている。

報道の任務は、事実をありのままに伝え余計なコメントや判断を付け加えないことだ。後段は、視聴者に予断を与えないためにある原則だ。しかし、現代人は働きすぎて朝から疲れているし、また情報がありすぎて自分で考えることなんてできないのだろう。だから、情報を選択し料理して体裁よく並べてくれるのは有難い。それなら、朝の連続テレビドラマの続きとして見ることができる。

おなじみのキャスターが登場し、ニュースを報道し、怒るわ笑うわ。ずらっと並んだ解説者は元検事、弁護士、元スポーツ選手…といったバラエティー。それぞれが存在感を示そうと“独自”のコメントを連発するが、番組の方向はシナリオ化され事前に決まっている。本日のネタには、怒りで、もうひとつのネタには笑いでという具合だ。

一連の食品偽装事件。これには怒りのシナリオがつけられた。嘘をつくのはよくない。少しひねって言えば、自分で嘘をつく人は他人の嘘を許せない。落語にあるが、皆が嘘を言っていれば、せつかくの自分の嘘が目立たない。効果ゼロだからだ。

偽装事件はいろいろあったが、全ての事件が、今年の流行の一字“偽”で一括されてしまった感がある。確かにすべての事件にウソがあるのだが、やや軽いものから重大なものまで、それこそバラエティーがあった。

〈偽装〉

北海道の食肉事件は悪質といえば悪質だが、少々滑稽なところもある。社長は金欲にとりつかれたオジさん。実の息子に諭されて白状したあたりは同年代の人間として情けなかった。裁判で、「自分は食肉 G メンに向いている。肉をみれば何を混ぜているかすぐに分かる。今後はそういう仕事をしたい。」と証言し、裁判官も検事も啞然としたという。しかし、この事件で健康被害は出なかった。人間は雑食性で、また油で揚げてしまえばたいがいのものは安全になる。もちろん、あとで事の顛末を知れば気持はよくないが。

「白い恋人」の事件も実害はなかった。これも単純な利潤欲望が倫理を乗り越えたケースだ。取締役会が一族優先の構成になっていた。賞味期限を書き換え・延長するぐらい、捨てるという“もったいない”行為に比べれば許される。こんな風に考える世代は日本に

多いのである。赤福も、吉兆も、老舗であり、それを守ってきた古いタイプの経営者のポカだった。

〈ギョーザ事件〉

これらに比べるとギョーザ事件は重大だ。これはウソの領域を超えている。食べた人は死ぬかもしれない。それを知ってやったなら、殺人未遂だ。

しかし、この事件の報道の仕方も問題があった。事の真相がわからないうちに、〇〇製は危ないという風潮ができあがってしまった。これだけの事があったのに、お前は食べるのかと言われれば、私自身もノーなのだが、問題はずっと大きい。

日本の食糧自給率は周知のように下がり続けている。ここまで来てしまったら後戻りはできない。地産地消はよいにきまっているが、それだけで私達が生きられる訳がない。つまり、食料の生産と消費の間のグローバリズムは後戻りできないレベルまで進んだ。それは農産物の加工による食品製造が、文字通り製造業であるからだ。製造業は、世界中から安くて品質の良い材料を調達し、労働力価格や輸送を考えて世界で最も有利な場所で生産する者が勝利する。市場を独占できる。

〈グローバルな心〉

問題はどこにあるのだろうか。それは、経済取引のグローバル化に、精神あるいは倫理のグローバル化が全然ついていっていない事だ。〇〇国民も△△国民も皆、地球人、同胞という意識が生産者に浸透していなければ、同様の事件はどここの国でも起こりうる。そういう意識は教育によってつくられるし、モラルは教養から生まれる。だから、かの国の反日教育も日本の書を読まぬ風潮も問題なのだ。

私達のしていることをもし宇宙人が観察していたらどう思うだろう。地球人はバラバラだな。やっていることは地球レベルなのに精神はてんでローカル。わざわざ地球なんぞに攻め込まなくても放っておけば自滅すると。

そうならないようにしたいものだが、食の世界こそ人類の連帯をつくるよい舞台なのであるまいか。世界中、皆、同じものを食べる時代になったのだから。